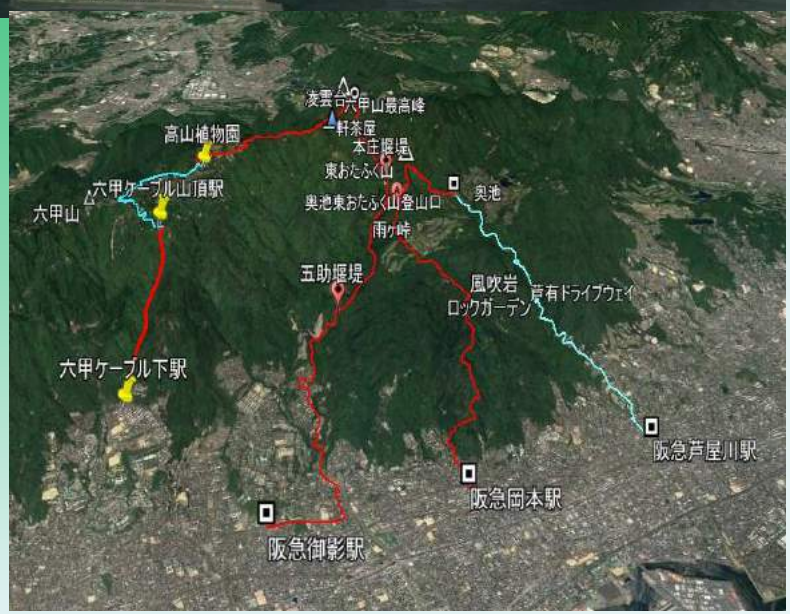
6月の梅雨の晴れ間　久しぶりに東六甲を歩く【2】

岡本保久良神社から尾根筋を風吹岩・雨ケ峠を経て東おたふく山へ　2018.6.22.



2018 6月　梅雨の晴れ間　久しぶりに　東六甲を歩く





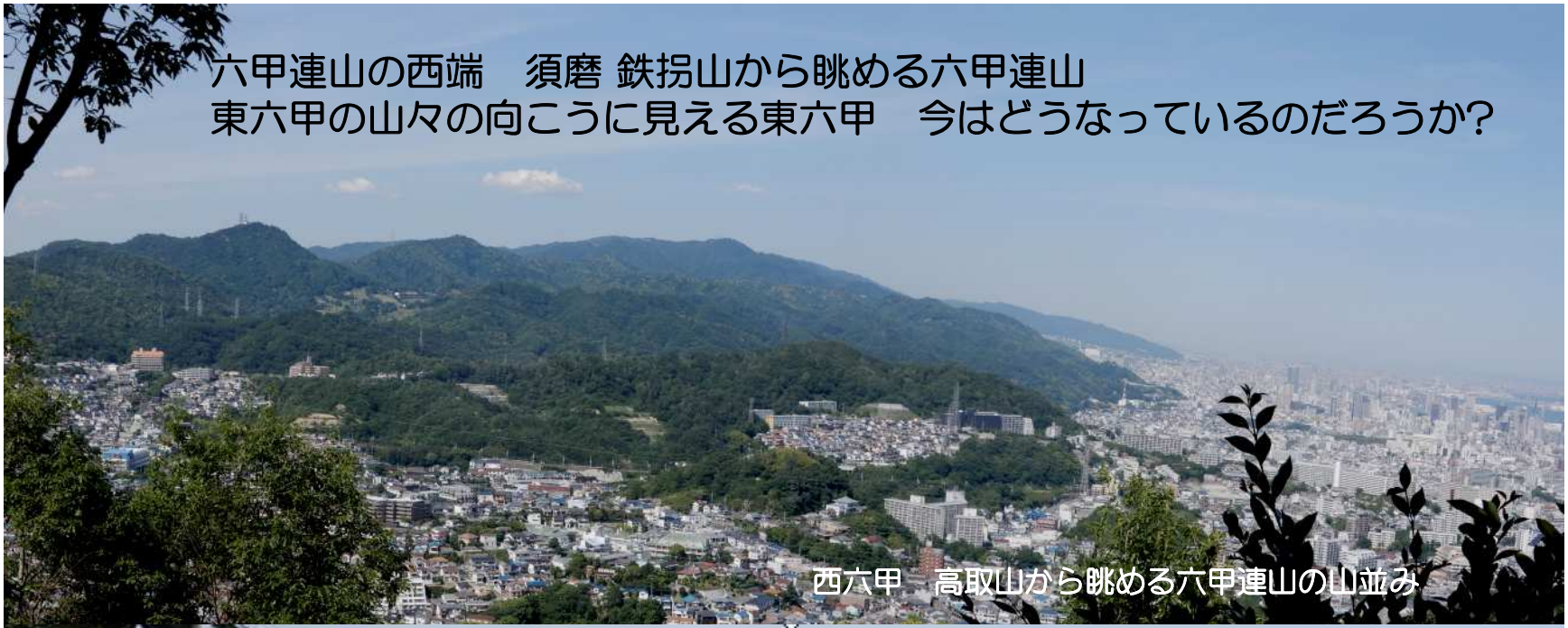
1.　六甲高山植物園より六甲最高峰を経て久しぶりに住吉谷を下る　　2018.6.14.

2.　岡本　保久良神社から尾根筋を風吹岩・雨ケ峠を経て東おたふく山へ　2018.6.22.

梅雨の晴れ間　久しぶりに六甲山上 Walk
東六甲の六甲高山植物園・六甲山最高峰へ
長いこと歩いていない東六甲の住吉谷を下りました。
また　別途　以前から気になっていた六甲越の古道・
東おたふく山への道を辿りました。

もう何十年も歩いていない住吉谷・おたふく山
雨上がりで美しい新緑の中を種々初夏の野草にも出会え、うれしいwalkでした。

六甲連山の西端　須磨 鉄拐山から眺める六甲連山
東六甲の山々の向こうに見える東六甲　今はどうなっているのだろうか?



西六甲　高取山から眺める六甲連山の山並み



西六甲の端　鉄拐山から眺める六甲連山の山並み


私の一番好きな六甲の景色のひとつ　武庫川土手から眺める東六甲の姿
小さな時から、私の慣れ親しんだ景色でもある
東の阪神間からは六甲の山上稜線の手前に　どっしりと大きなお多福山が座り、
その後ろに六甲の稜線が頭をのぞかせ、一番東にシンボリックな甲山が見える。
六甲もさることながら、広い草原の遠い記憶しかないお多福山にもぜひ訪ねたい
R171号線　武庫川 甲武橋から眺める六甲連山　google earthより

尼崎と西宮の境を流れる武庫川
この土手から眺める東六甲の姿は私にとっては小さい頃から朝夕慣れ親しんだ景色。
東端にこんもりと甲山がみえ、その後ろに東六甲の山々が連なる六甲が一番美しく見える景色。
電車に乗ると毎度探す景色でもある。

須磨に移り住んで、西六甲に登る機会は増えましたが、東六甲に行く機会もなく、イメージだけが頭に残っている。

須磨西六甲の鉄拐山iからは眺めると東に延びる六甲の山並み。六甲稜線の山々の後遠くに隠れるように、東六甲の山々の山裾が遠望される。
「長いこと東六甲の六甲最高峰や表六甲住吉谷それに山裾だけが見えているお多福山・甲山にも登っていない。 今はどないなっているのだろうか?」と好奇 の虫が騒ぐ。

かつてよくハイキングに出かけた場所ではあるが、住宅地として大きく変貌した阪神間六甲の山腹。色々話は聞くが‥‥と興味深々。
この梅雨の晴れ間　電車に使えば1時間もかからず麓に行けるので、毎日の健康walkに東六甲へも足を延ばそう。一番行きたいのは住吉川の谷筋とおたふく山　そして最後は甲山と。
思い立ってすぐ東六甲walkをめぐらす。


R171号線　武庫川 甲武橋から眺める六甲連山　google earthより

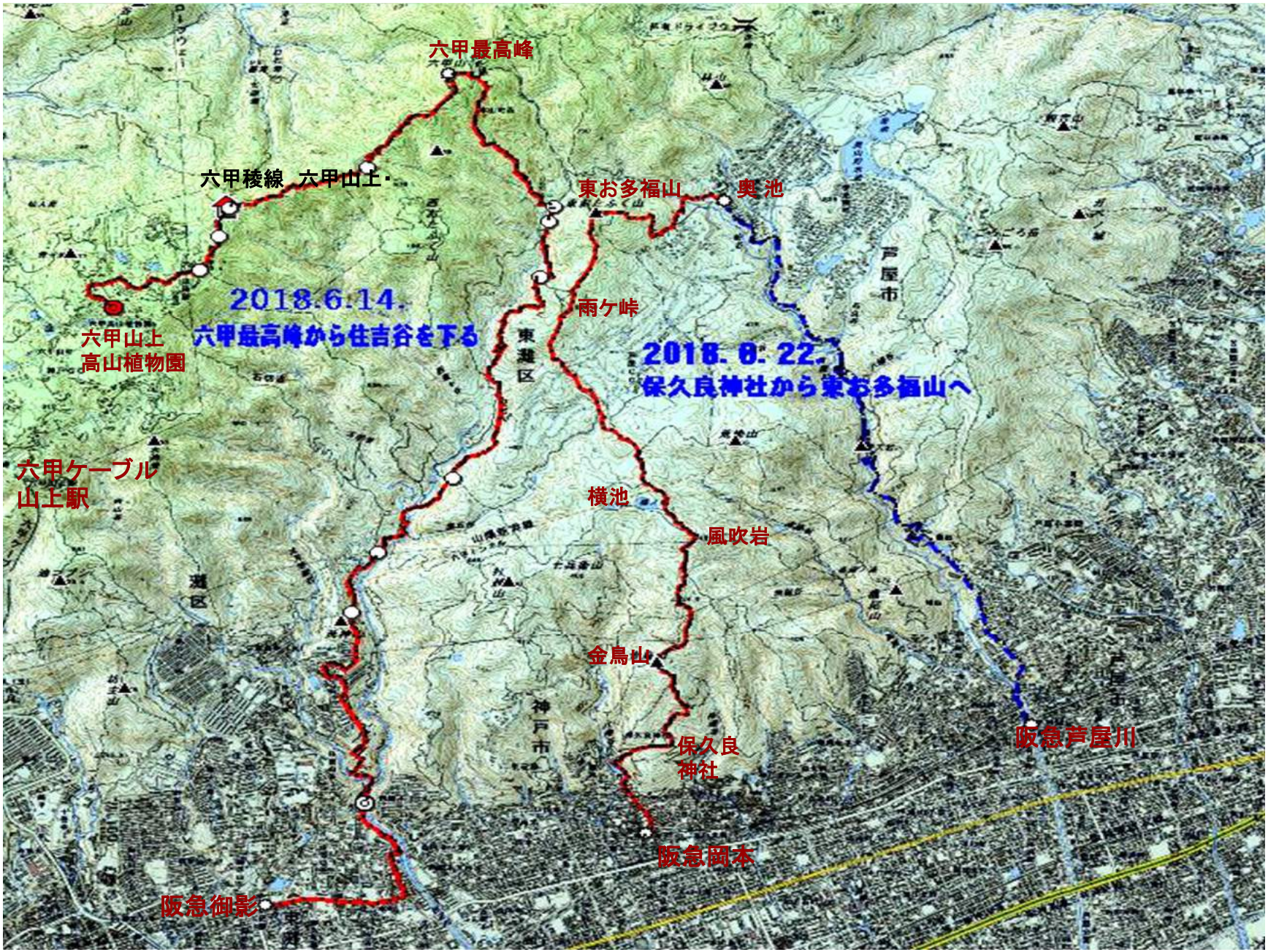

西六甲　高取山から眺める六甲連山の山並み

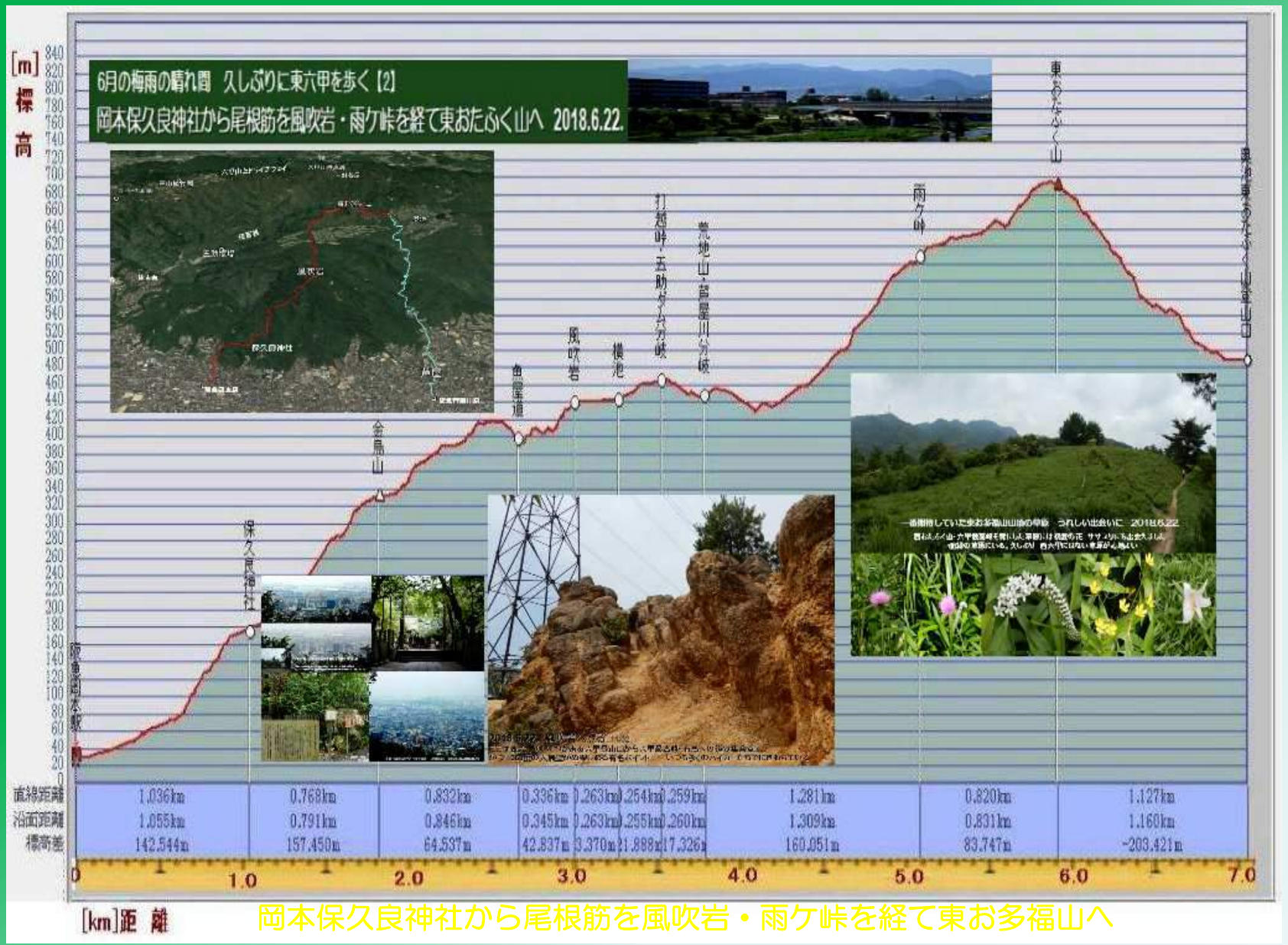


西六甲の麓　鉄拐山から眺める六甲連山の山並み

6月の梅雨の晴れ間　久しぶりに東六甲を歩く【2】
岡本保久良神社から尾根筋を風吹岩・雨ケ峠を経て東お多福山へ　2018.6.22.
ずいぶん久しぶりのルート　草原が広がるお多福山から奥池に降りる
いつも気になっていたお多福山　胸を膨らませて阪急岡本駅からスタート




六甲最高峰
六甲稜線　六甲山上・
東お多福山
奥池
2018.6.14.
六甲最高峰から住吉谷を下る
六甲山上
高山植物園
雨ケ峠
東灘区
芦屋市
2018. 6. 22.
保久良神社から東お多福山へ
六甲ケーブル
山上駅
横池
風吹岩
灘区
金鳥山
神戸市
保久良
神社
阪急芦屋川
阪急岡本
阪急御影



岡本保久良神社から尾根筋を風吹岩・雨ケ峠を経て東お多福山へ









洒落た店が立ち並び、今は学生の街としても発展する 岡本　阪急岡本駅南口　2018.6.22.

表六甲の山を背に　傾斜地に段々に閑静な住宅が建ち並び、山麓を坂道が伸びる神戸の高級住宅地の一つ
駅の改札を出たのは久しぶり。　駅の東から踏切を渡り、住宅の中の坂道を北へ上る　9:30









正面に保久良神社のある尾根筋を眺めながら坂道を登りきると天井川が流れ下る八幡谷の入口。
保久良神社へは右に車道があり、山を登るのですが、
まっすぐ川に沿って公園を抜けて、山道を行く。









2018.6.22.　天井川沿いから尾根筋の先端の上にある保久良神社へ

右手尾根筋に出る小さな枝谷を登る　もう住宅地の見えぬ林の中、尾根に向かって上る

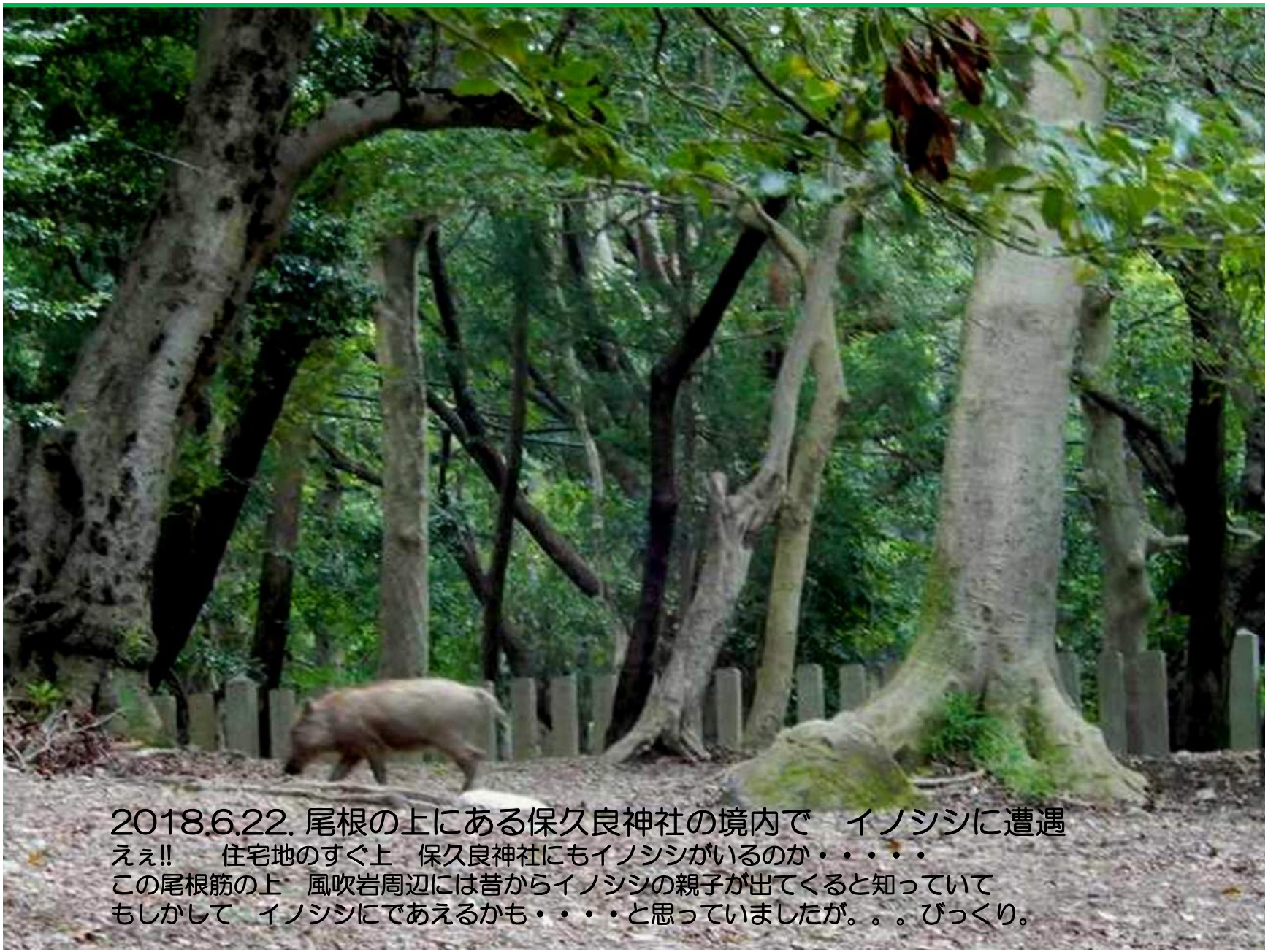








緑に包まれた林の中　ほどなく傾斜が緩くなり、尾根の上　保久良神社の境内に
すぐ前に金鳥山を経て　六甲へ上る案内標識が見える　2018.6.22.　.



2018.6.22. 尾根の上にある保久良神社の境内で　イノシシに遭遇
えぇ!!　　住宅地のすぐ上　保久良神社にもイノシシがいるのか・・・・・
この尾根筋の上　風吹岩周辺には昔からイノシシの親子が出てくると知っていて
もしかして　イノシシにであえるかも・・・と思っていましたが。。。びっくり。



2018.6.22. 南北に延びる尾根の先端にある保久良神社　正面鳥居前　9:55
繁体側南には東神戸の市街地から大阪湾が一望　　絶好の展望地に整備されていました





保久良神社　正面鳥居前から眺める東灘市街地展望

山裾に広がる東灘　本山の市街地　奥に深江・魚崎の海岸部
そして　港をまたぐ阪神高速湾岸線の東神戸大橋がかすんで見えている


保久良神社本殿　2018.6.22.



御祭神「椎根津彦命」の御事蹟

摂津国菟原郡（夙川西岸から生田川東岸までの間）の統治を委任された「命」は、多くの村里が良く見渡せる場と、海から昇る日輪（太陽）が遥拝できる場を兼ね合わせた処を、海上から眺め探し求められ、最適な場所として「ほくら山」を見つけられ青亀を麓の真下の海岸に着けられました。

この由緒から、青亀が着いた岸部・青木の地名が起こる」

早速、青木～南田邊～北畑を経て山を目指して登られました。山頂から、眼下に広がる海、対岸の山々、東西に広がる村里を眺められ「命」の心に適合した場所であり、祭祀する場として清めた後、東から昇る日輪を遥拝し、大岩を並べ「磐座」とし「祖先神」（須佐之男命・大歳御祖命・大国主命）を祭祀して「農業生産・諸産業繁栄・村里安全」を一族と共に祈願されました。

は「ヒ」（神靈）を集めた場（倉）から」

「社

一緒に人々共に、生活改善向上の策として、日々・常時「火種」の供給の場を起し、多くの人々に「火力」の普及保持を勧め、土器生産を通じ農業発展を奨励する。

海上交通の安全を図るため、社頭に「かがり火」を焚き、航行安穏を祈ると同時に、文物の流通の道を開拓されました。

「社名由来の二＝火種を保持する庫・倉＝「火倉」となる」

「灘の一つ火」の起源＝社頭のかがり火が始まり」

火力の補給を通じ、「殖業」を促進、海上交通安全から文物流通等、活気溢るる村里の繁栄に尽くされました。

丁度その頃、天っ神の御子（神武天皇）が九州「日向」の国より東・大和に向かうことを聞かれ、青亀に乗り、和田の浦にて釣りをしながら、速水の門（明石海峡）にて待機、「私は国っ神、名は珍彦（宇豆彦）」と名乗り、「皇船の先導者とならん」と申され、椎橋を通して船中に入り、神武天皇と対面、「椎根津彦」の称号を賜り、海道者として浪花に上陸、河内・大和等転戦、苦労の中に献策を建てられました。後、大和建国の第一の功労者として、神武天皇即位二年「汝、皇船に迎え、導きて、績を香具山の巓に表せり。因りて、倭国造を賜る」（古事記・日本書紀・旧事本紀）

また、倭宿祢として天皇の近くにあり、大和建国・安寧に貢献されました。

その後、信濃・越後の国の開発に尽力される等の後、倭国造の要職を子孫に譲り、「命」は故郷「菟原の郷」に帰り、弟猾と共に郷土の育成・発展に尽くされました。

今も昔も変わることなく、毎朝日の出を拝み「磐座」に神々の神恩を感謝し祈りを捧げつつ、代々の祖先から継承されてきたこの聖地を護持し、敬神愛山の道を次世代に向け大切に守りたいものです。







海岸を見晴らす尾根筋の南端　社頭にかがり火がたかれ、沖を通る船の重要な目印だったという



「磐座」古代祭祀遺蹟地

「ほくら」の境内には、大きな岩がたくさんあります。この岩は、「立岩」といわれ、神様に祈るために人々が立て起こした祈願岩の一つです。

社務所の裏の大きな岩は「神生岩」と呼ばれております。神社の建物の裏の岩群を中心に境内にかけ、大きな円形状に大岩が配置されております。このように配置された岩群は、「磐座」と呼ばれ「磐境」ともいわれます。

昔の人は、大きな岩に常世の国より神様をお招きして、農業生産、諸業繁栄、村里安全を祈願いたしました。

このように古代人等が祈願した神聖な場所ですから、現代では「古代祭祀遺蹟地」と呼ばれ、祈る時に使用された「つぼ・かめ・さら」などの土器破片や「やじり・おの」の石器も多数出土しております。それらは「弥生式」の中期の時代のものと認定され、紀元前二百年前頃より、この「ほくら」では、古代人が神様を祭祀していた一つの「証拠」であります。

また、ほくらの「磐座」は昔大和の国、現奈良県桜井市の大神神社の背後の三輪山頂にある「磐座」と同じ時期のものといわれております。

保久良神社　磐座　立石
2018.6.22.



保久良神社本殿横より　磐座　立石　2018.6.22
街から少し登っただけであるが、静かな林の中　古くから神の宿る場所です



保久良神社　磐座　神生岩　2018.6.22.

保久良神社を出て、北へ　緑に包まれた金鳥山から風吹岩への尾根筋を登ってゆく



保久良神社から尾根筋を金鳥山・風吹岩へ向かう　　2018. 6. 22.　10:00
神社を出て登山道を北に登ったところに金鳥山・六甲最高峰・有馬への案内板









よく整備された尾根筋の登山道　金鳥山に登ってゆく　2018.6.22.



金鳥山周辺　左へ休憩所ありの標識　　展望の効く広場でした　2018.6.22.　10:18



金鳥山頂上周辺　展望広場　　眼下に広がる神戸東灘の市街地遠望　2018.6.22.



南 眼下に広がる六甲アイランド遠望　　2018.6.22.　金鳥山頂上周辺展望広場より



2018.6.22.　樹木に覆われた金鳥山頂上周辺
展望広場より北側　左手の樹木の中に金鳥山山頂なのですが、三角点見つけられず。
視界開けず通過して、元の登山道に出てしまいました



鉄を含み、真っ赤な金鳥山周辺の登山道

周辺には弥生時代の遺跡や磐座もあり、
この赤い土が何か役割をはたしていたかもしれぬ。






2018.6.22.　10:28
三角点がないかと金鳥山頂上周辺を歩きましたが、樹木や笹に向覆われ見つけられず。
北の横池から風吹岩へ向かう元の登山道に出て　下りになってしまいました。



金鳥山を下り終えたところが　八幡谷・住吉谷　西への分岐
2018.6.22. 10:31









熊笹の中を抜けると今度は植林された杉林の山腹　張り出した杉の根模様が美しい

2018.6.22.





いくつかコブを超えながら　緑に包まれた林の中を北へまっすぐ尾根道は続く
風吹き岩の手前で　2018.6.22.　10:43

















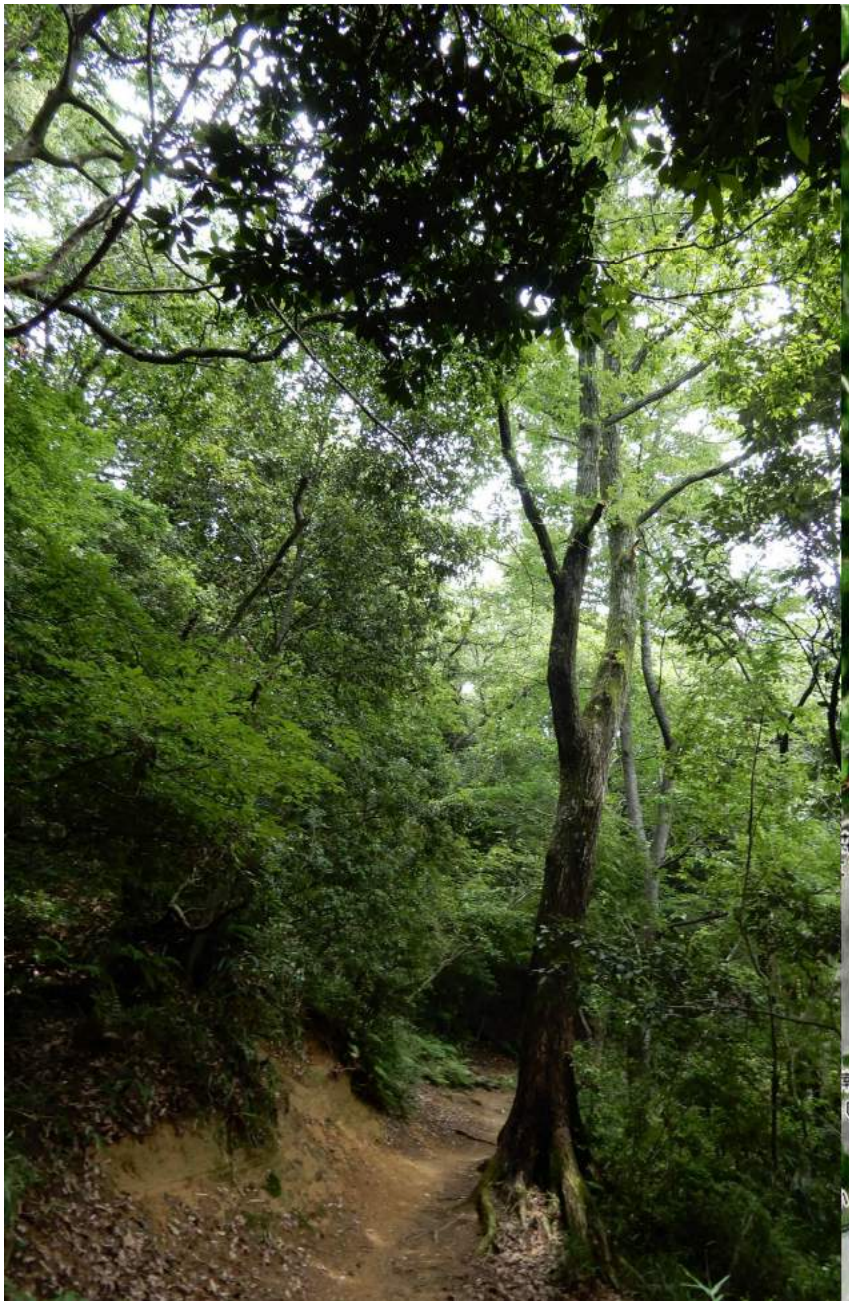
緑に包まれた中を北へコブを超えながら　まっすぐ尾根道は続く
本当に緑が心地よい　森林浴　風吹岩の手前で　2018.6.22.

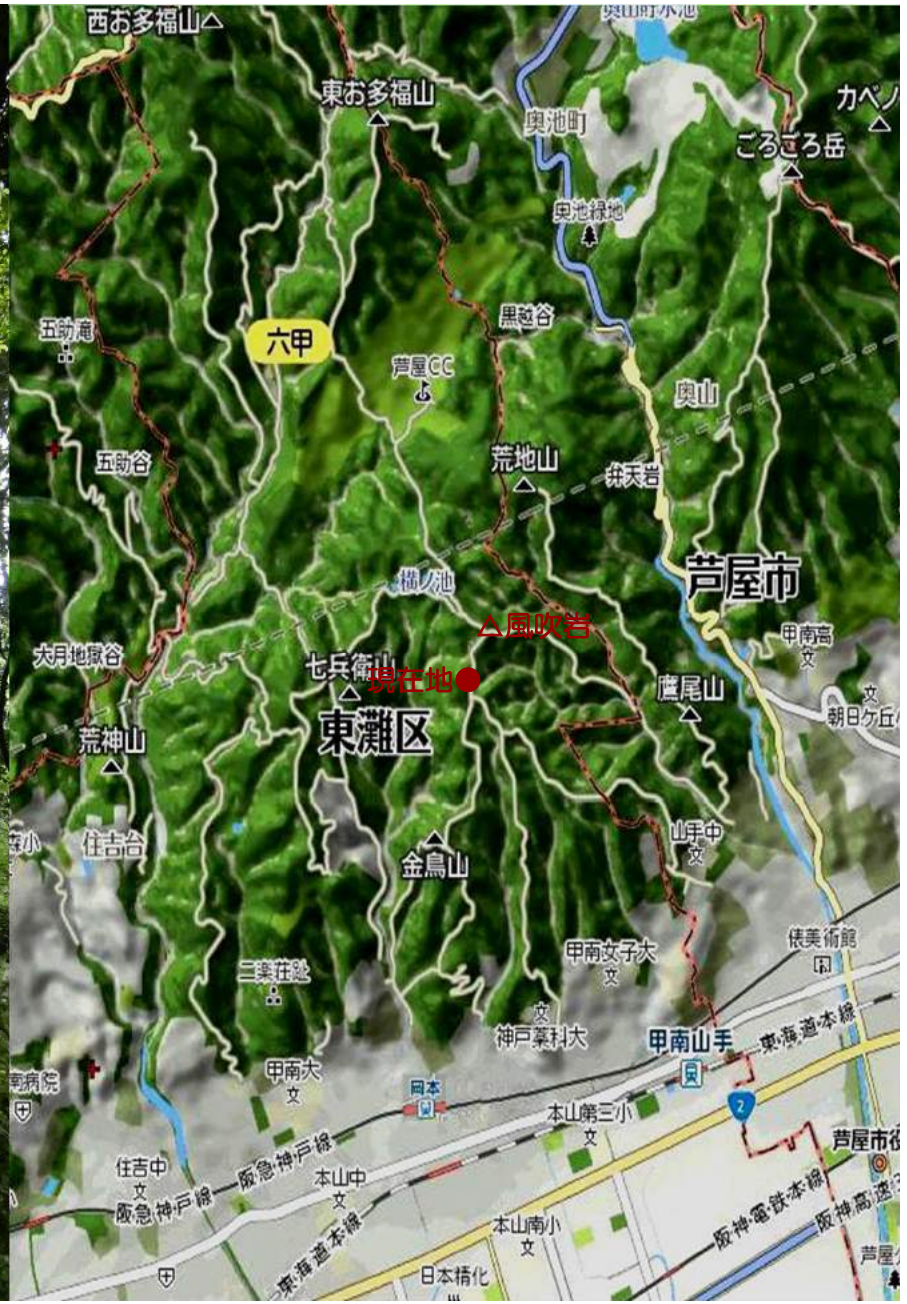






緑の中を抜けるとT字路に　　南から登ってきた古道「魚屋道」に合流
2018.6.22. 10:50
芦屋の弥生の高地性集落「会下山遺跡」から上へ登り、魚屋道に合流して　風吹岩へ登ってくる道。　かつて何度かこの道も登ったことがある




西お多福山
東お多福山
奥池町
ごろごろ岳
奥池緑地
五助滝
六甲
芦屋CC
黒岩谷
奥山
五助谷
荒地山
井天岩
芦屋市
横ノ池
△風吹岩
大月地獄谷
七兵衛山
現在地●
東灘区
鷹尾山
甲南高
朝日ケ丘
荒神山
住吉台
金鳥山
山手中
二楽荘跡
甲南女子大
神戸薬科大
甲南山手
東海道本線
甲南大
岡本
本山第三小
住吉中
阪急神戸線
本山中
本山南小
日本精化
阪神電鉄本線
芦屋市役



また、空が開けて　明るい尾根筋道に　　2018.6.22.
次々とコブを超えて登る度に　森の色が次々と変化して美しい。









空が明けて道がだんだん急になり、石がゴロゴロある登りに　風吹き岩近し
2018.6.22.



空が明けて道がだんだん急になり、石がゴロゴロある登りに　風吹き岩近し
2018.6.22.








急な登りの道の横には巨石がゴロゴロ見える　風吹岩周辺　2018.6.22.



壁のような巨岩 風吹岩 の横を抜ける　と芦屋ロックガーデンからの道との合流点
2018.6.22.



壁のような巨岩 風吹岩 の横を抜ける と
芦屋ロックガーデンからの道との合流点　2018.6.22.



2018.6.22.　風吹岩へ登る 11:02

ここは表六甲のいくつかある六甲登山口から六甲最高峰・有馬への道の集合点で、
かつ 360度の大展望がぬ楽しめる有名ポイント　　いつも多くのハイカーたちでにぎわっている



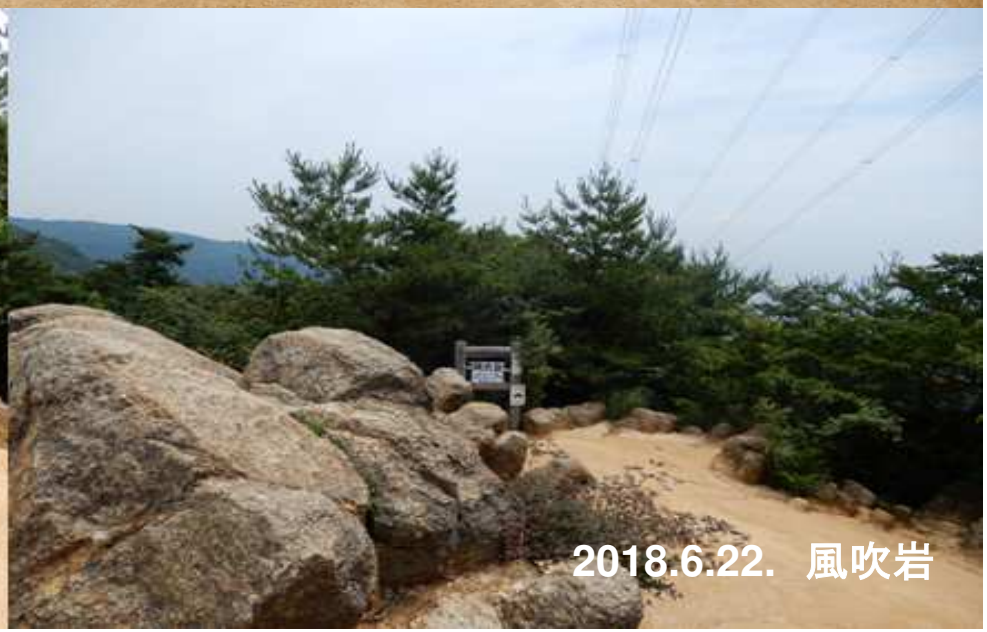




2018.6.22. 風吹岩へ登る 11:02







2018.6.22.　風吹岩









2018.6.22.　風吹岩から眺める周囲の大展望

晴れてはいるのですが、霞がかかっていて、　南に広がる大阪湾沿岸に広がる市街地はうっすらでよく見えない。また、この周辺で何度か昔イノシシの親子を見かけたのですが、全くなし。餌やり禁止の流れが定着したのだろう





2018.6.22.　風吹岩から眺める南側　東灘市街地の展望





こんな景色を期待したのですが、また次回です　　インターネットより採取

2018.6.22.　風吹岩からの展望　西側の谷を送電線が六甲の山を渡ってゆく
打越山の尾根筋の向こうに西おたふく山と重なって　六甲の主稜線がかすんで見えている







日本のロック・クライミングの発祥地　ロックガーデンの
中央稜から高座谷をはさんで山腹に岩が立ち並ぶ山。
多くのクライマーが訪れる山である。

2018.6.22.　風吹岩からの展望　北側 荒地山　　北側　樹木で見えないが、地獄谷・
ロックガーデンの向こう　みどりの山肌ところどころに荒々しい岩肌をむき出す荒地山
その後ろには、六甲主稜線南側のゴロゴロ岳から市街地に落ちる尾根筋が見えている。



Photoを引き延ばすと荒々しい岩がいくつも立ち並ぶ姿がよくわかる。
クライミング・ボルダリングの名所と聞く荒地山
風吹岩から六甲主稜線の南側の尾根筋を渡ってゆく送電線も見えている









風吹岩の展望をそうそうに切り上げ、樹林帯の中　尾根筋を下って東お多福山へ向かう　11:10
すぐに打越山別れの標識が現れる　まだ緩い尾根歩きが続く



屏風岩から北へ下りきったところ　横池との分岐　2018.6.22.　11:14







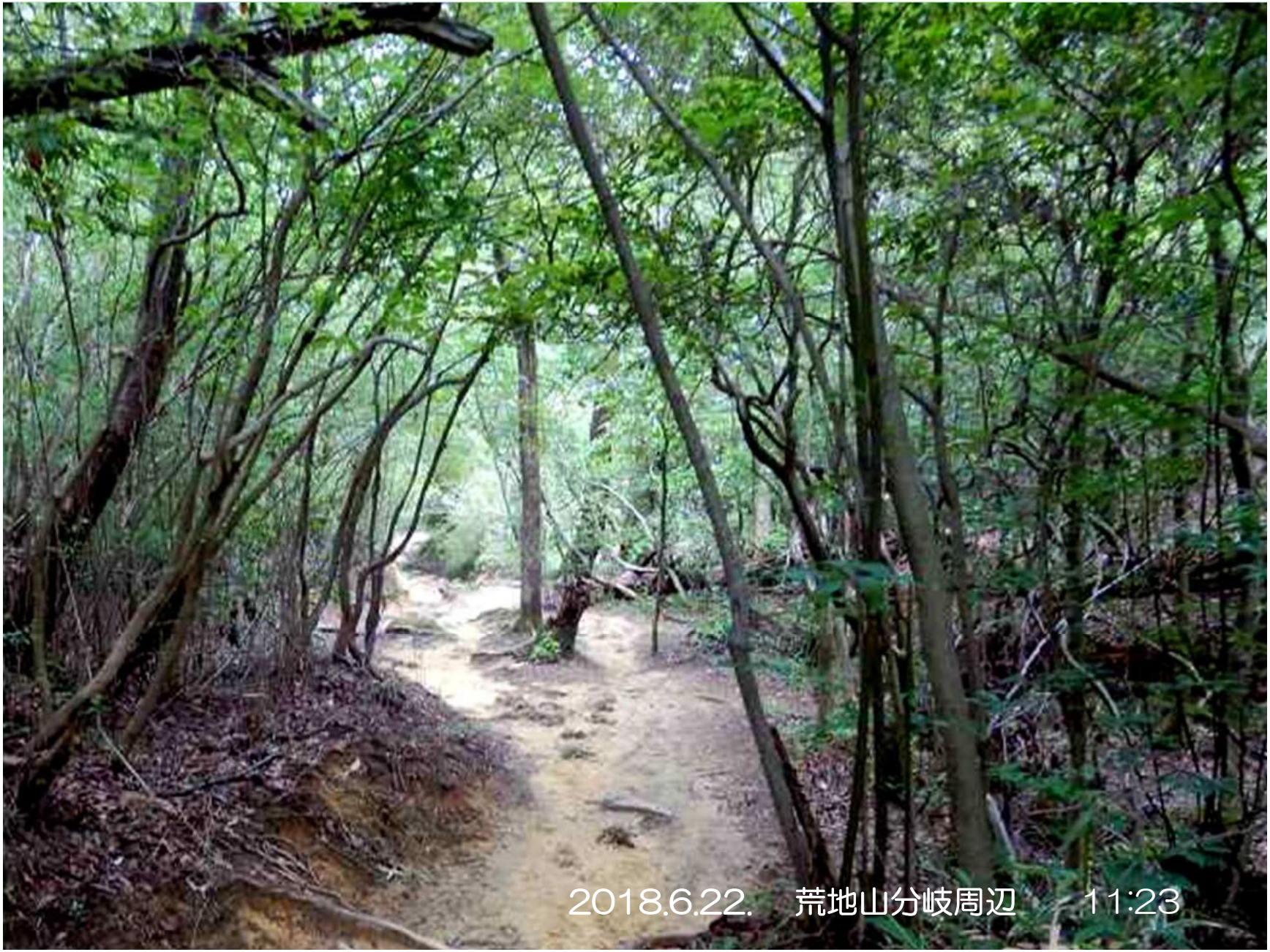
2018.6.22. 横池周辺　打越峠・住吉谷別れ　11:19



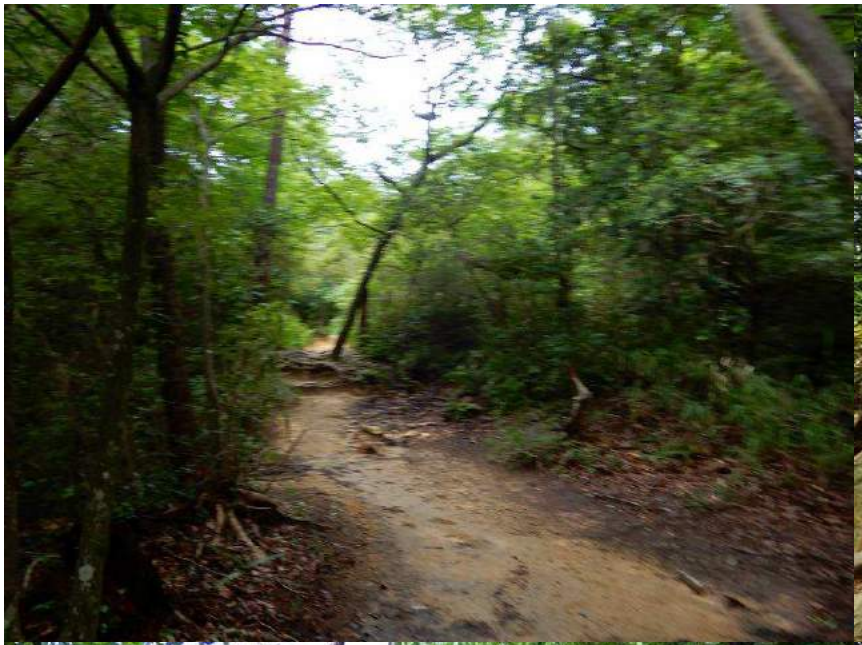
2018.6.22.　横池周辺　打越峠・住吉谷別れ　11:19



鉄分を含んだ登山道が美しい模様を描く　2018.6.22.


2018.6.22.　荒地山分岐周辺　11:23


東おたふく山
雨ケ峠
東灘区
ゴルフ場通過
荒地山
荒地山分岐
芦屋CC
黒越谷
蛇谷
東池畑
621.3
549
475
463
2018.6.22.　荒地山分岐　11:23






東お多福山の南斜面を尾根筋雨ケ峠への取付きへ　枝尾根を越える









黒五谷の谷川を渡り、いよいよ東お多福山の南斜面を尾根筋雨ケ峠へ登る



芦屋GC.をトラバースして、東お多福山の尾根上の雨ケ峠へ　11:33
2018.6.22.　芦屋GC.入口(打越峠・住吉谷分岐)
黒五谷の谷筋を渡り、東お多福山南斜面山麓　芦屋GC.を抜けて
東お多福山の尾根上の雨ケ峠にとりつく



芦屋GC.の中をトラバースして東お多福山の斜面を登ってゆく。2018.6.22
道は両側に広がるグリーンよりも一段高くなった上、樹木の間から見えるグリーンの緑が美しい









芦屋GC.の中をトラバースして東お多福山の斜面を登ってゆく。2018.6.22.







芦屋GC.の中をトラバースして東お多福山の斜面を登ってゆく。2018.6.22.









一段上へ山腹をの掘ったところで再度グリーン横をクロス
南の海岸線へ向かって美しいグリーンが見える







2018.6.22.　芦屋G.Cを抜け、東お多福山の雨ケ峠へ登ってゆく　11:43











2018.6.22.　20分弱で斜面を登り切り、　雨ケ峠到着　12:00

南北に延びる東お多福山の稜線尾根の南端、樹木に包まれた広い場所である。

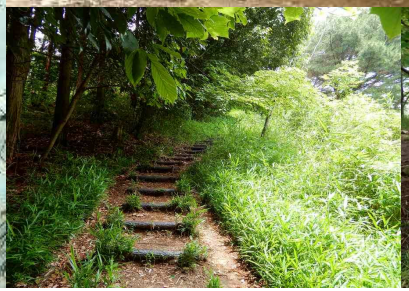
ここからまっすぐ北へなだらかな稜線尾根を登れば、東お多福山。

六甲最最高峰・有馬への道「魚屋道」は西へ乗越してゆく


東おたふく山
▲597
510
東池田
蛇谷
550
621.3
雨ケ峠
東灘区
475
660
芦屋CC
黒越谷
住吉川
ゴルフ場通過
荒地山
▲549
463
荒地山分岐








ここは雨ケ峠
東おたふく山

雨ヶ峠から主要目的地への距離

雨ヶ峠 → 東おたふく山 1.2Km → 土樋割 1.7Km → 石の宝殿 3.2Km → 阪急宝塚駅 15.0Km

雨ヶ峠 → 奥池（バス停） 1.8Km

雨ヶ峠 → 最高峰 2.4Km

雨ヶ峠 → 本庄橋跡 1.0Km → （七曲り） → 一軒茶屋 1.8Km → （魚屋道） → 有馬温泉 3.8Km

雨ヶ峠 → （住吉道） → 五助ダム 3.1Km → 住吉台（バス停） 5.3Km → 〜駅 〜Km

雨ヶ峠 → 風吹岩 2.5Km → （ロックガーデン） → 阪急・芦屋川駅 6.3Km

雨ヶ峠 → 風吹岩 2.5Km → （魚屋道） → JR甲南山手駅 5.9Km

雨ヶ峠 → 保久良神社 4.8Km → 阪急岡本駅 6.0Km

現在地

神戸市森林整備事務所 TEL078-371-5937





雨ケ峠から、まっすぐ北へ東お多福山のなだらかな稜線尾根を登ってゆく 2018.6.22.





林を抜けると眼前には広い草原　奥には見慣れた西おたふく山の鉄塔が飛び込んできた
西おたふく山の山頂部に到達。何度か来た記憶はあるのですが、もっと熊笹だったかぁ
ちゃんとした記憶なし。　山頂は一番北だ　2018.6.22.　12:05



一番期待していた東お多福山山頂の草原　うれしい出会いに　2018.6.22.

西おたふく山・六甲最高峰を背にした草原には初夏の花　ササユリにも出会えました
一面緑の草原にいる。久しぶり　西六甲にはない草原が心地よい





東お多福山山頂の草原から眺める六甲山の稜線　2018.6.22.







東お多福山山頂の草原から眺める六甲山の稜線　2018.6.22.



東お多福山山頂の草原 【1】 南側を振り返る　　2018.6.22.



東お多福山山頂の草原 【2】
北側にもう一つ東お多福山の山頂がある丘が見える　　2018.6.22.







東お多福山山頂の草原 【3】
手前の広い草原から東お多福山山頂のある丘へ 2018.6.22.



東お多福山山頂　樹林の中を抜けるとお多福山稜線の北の端
東側が開けた平らな丘が見えてくる　坂道を上がればお多福山の山頂です　2018.6.22.



東お多福山山頂　山頂は東側が開けた広場　　2018.6.22.　12:27



山頂広場の北の端に「ここは東お多福山です」と書かれたコース標識　2018.6.22.
左:雨ケ峠　右:東お多福山バス停　後:土樋割峠を越えて最高峰(石宝殿)

東お多福山には三角点はなく、これが山頂標識の代用?

北　土樋割峠を越えて
最高峰・有馬への下り口

東　芦有道路 奥池
東お多福山バス停への下り口

広場北端の東お多福山コース標識　２０１８.6.22.
今回は北の六甲最高峰の方には行かず、奥池へ下る





北　土樋割峠を越えて
最高峰・有馬への下り口

東　芦有道路 奥池
東お多福山バス停への下り口

南北に連なる東お多福山　東お多福山山頂広場の北端の下り口を眺める　2018.6.22.

山頂では東側に視界が開け、東に見える尾根筋の山腹には奥池の住宅地、
そして遠く大阪湾沿岸の市街地が遠望されるがここでも今日はかすんで遠くはほとんど見えませんでした。





山上稜線を南の雨ケ峠へ

東お多福山からの展望【1】　2018.6.22.
視界の開けた東側には芦有道路沿い山中に開かけた街「奥池」が見える







東お多福山からの展望【2】　2018.6.22.
目を南東側に転ずるとうっすら西宮の沿岸部がみえるが全体にかすんでよく見えない。
やっぱり　梅雨の晴れ間です



東お多福山からの展望【2】　南東側にうっすら西宮の沿岸部?がみえる　2018.6.22.





東お多福山から奥池へ降る　2018.7.22.　12:32

念願だった東お多福山に登れ、梅雨の晴れ間　霞んで大阪湾沿岸がかすんでいたのは残念でしたが、
六甲の稜線をバックに　初夏の花咲く心地よい緑の山上草原に出会えて喜び一杯で山頂を後にする











東お多福山山頂から山上を東へ　正面の奥池の街に向かって下ってゆく　2018.6.22.





山上を後に、一機に樹林の中　急な坂道になって下ってゆく。12:37





。歩きにくい山道でしたが、１５分ほどで　奥山の配水場の横に出るが、
街の中へは出られず、山腹を北へ巻いてゆく。12:48







山道を下り終えて、小さな谷川を渡り、土樋割峠から下ってきた舗装道路に合流　12:56









芦有道路奥池　東お多福山登山口バス停に到着　　２０１８.６．２２.13:03

梅雨の晴れ間　霞んで大阪湾沿岸がかすんでいたのは残念でしたが、
念願だった東お多福山に登れ、六甲の稜線をバックに初夏の花咲く
心地よい緑の山上草原に出会えて喜び一杯のうれしい東お多福山walk

眼下に東灘の沿岸部を見下ろす保久良神社・久しぶりの巨岩 風吹岩・
芦屋GCを横切りまじかにみる六甲稜線等々
岡本駅から2時間ほどの中でゆっくりと　この変化に富んだ展望コースを歩け、
頂上からの下りが短いのも年寄りには魅力です。
また、奥池の街に降りて芦有道路を阪急芦屋へ下るバスに乗るのも初めて。
もっとバス賃が高いと思いましたが、案外安いのにもびっくり。

いつも気になっていたお多福山　すっきりしました。
でもやっぱり一番は西六甲にはない緑の草原かなぁ
ぜひ今度は展望が聞く時期にと。

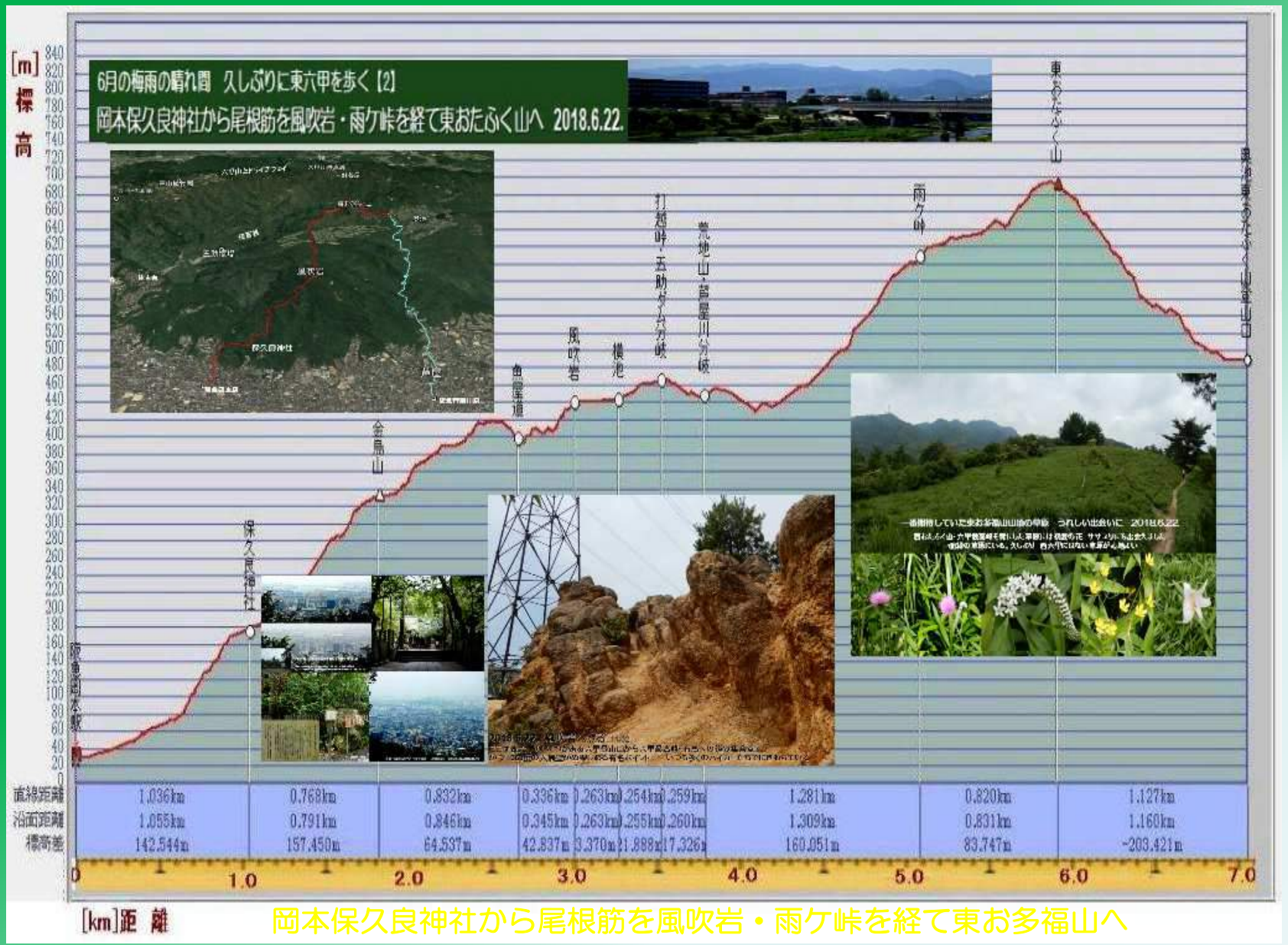
よく整備された芦有道路をバスで下りながら
　　2018.6.22.　午後　　Mutsu Nakanishi



山頂広場の北の端に「ここは東お多福山です」と書かれたコース標識　2018.6.22.
左:雨ケ峠　右:東お多福山バス停　後:土樋割峠を越えて最高峰(石宝殿)
東お多福山には三角点はなく、これが山頂標識の代用?



東側が開けた広場の東お多福山山頂　　2018.6.22.



岡本保久良神社から尾根筋を風吹岩・雨ケ峠を経て東お多福山へ





保久良神社、正面鳥居前から眺める東灘市街地展望

山裾に広がる東灘、本山の市街地　奥に深江・魚崎の海岸部
そして、港をまたぐ阪神高速湾岸線の東神戸大橋がかすんで見えている





「磐座」古代祭祀遺跡

「ほくらの峡方には、大きな岩がたくさんあります。
この岩は、「磐座」といわれ、神様に祈るために人々が立
て起こした神聖な岩の一つです。
社務所の裏の大きな岩は「神集岩」といわれております。
神社の建物の裏の岩明全体に境内にかけ、大きな岩が
状に大岩が配置されております。このように配置された岩
群は「磐座」といわれ、「磐境」ともいわれます。
昔の人は、大きな岩に神の国より神様をお招きして
農業生産、健全繁栄、村里平安を祈願いたしました。
このように古代の人々が祈願した神聖な場所ですから、現
代では「古代祭祀遺跡」と呼ばれ、祈る時に使用された
「つぼ」や「かめ」さら」などの土器破片や「やじり」刃の石
器も多数出土しております。それらは「弥生式」の中期の
時代のものと認定され、紀元前二千年前頃より、この一ほ
くらでは、古代人が神様を祭祀をいた一つの「証拠」で
あります。
また、ほくらの「磐座」は日本六の国　現在兵庫県神戸市
の大神神社の背後の三輪山頂にある「磐座」と同じ神聖の
ものといわれております。

保久良神社　磐座
2018.6.



南 眼下に広がる六甲アイランド遠望　2018.6.22、金鳥山頂上周辺展望広場より



2018.6.22.　風吹岩へ登る 11:02

ここは表六甲のいくつかある六甲登山口から六甲最高峰・有馬への道の集合点で、
かつ 360度の大展望がぬ楽しめる有名ポイント　　いつも多くのハイカーたちでにぎわっている








一段上へ山腹をの掘ったところで再度グリーン横をクロス
南の海岸線へ向かって美しいグリーンが見える










東おたふく山
雨ケ峠
東灘区
芦屋CC
黒蔵谷
蛇谷
ゴルフ場通過
荒地山
荒地山分岐
621.3
475
549
463










東お多福山山頂の草原から眺める六甲山の稜線　2018.6.22.



一番期待していた東お多福山山頂の草原　うれしい出会いでした　2018.6.22.





東お多福山からの展望　南東側にうっすら西宮の沿岸部?がみえる　2018.6.22.

6月の梅雨の晴れ間　久しぶりに東六甲を歩く【2】
岡本保久良神社から尾根筋を風吹岩・雨ケ峠を経て東お多福山へ　2018.6.22.
ずいぶん久しぶりのルート　草原が広がるお多福山から奥池に降りる
いつも気になっていた東六甲お多福山　楽しいハイクでした




私の一番好きな六甲の景色のひとつ　武庫川土手から眺める東六甲の姿
小さな時から、私の慣れ親しんだ景色でもある
東の阪神間からは六甲の山上稜線の手前に　どっしりと大きなお多福山が座り、
その後ろに六甲の稜線が頭をのぞかせ、一番東にシンボリックな甲山が見える。
六甲もさることながら、広い草原の遠い記憶しかないお多福山にもぜひ訪ねたい
R171号線　武庫川 甲武橋から眺める六甲連山　google earthより

2018 6月　梅雨の晴れ間　久しぶりに 東六甲を歩く



1. **六甲高山植物園より六甲最高峰を経て久しぶりに住吉谷を下る　2018.6.14.**

2. **岡本　保久良神社から尾根筋を風吹岩・雨ケ峠を経て東おたふく山へ　2018.6.22.**

梅雨の晴れ間　久しぶりに六甲山上 Walk
東六甲の六甲高山植物園・六甲山最高峰へ
長いこと歩いていない東六甲の住吉谷を下りました。
また　別途　以前から気になっていた六甲越の古道・
東おたふく山への道を辿りました。

もう何十年も歩いていない住吉谷・おたふく山
雨上がりで美しい新緑の中を種々初夏の野草にも出会え、うれしいwalkでした。

